

あとがき

「我が国の子供たちについては、判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることについて課題が指摘されることや、自己肯定感や学習意欲、社会参画の意識等が国際的に見て低いことなど、子供の自信を育み能力を引き出すことは必ずしも十分にできておらず、教育基本法の理念が十分に実現しているとは言い難い状況です。また、成熟社会において新たな価値を創造していくためには、一人一人が互いの異なる背景を尊重し、それぞれが多様な経験を重ねながら、様々な得意分野の能力を伸ばしていくことが、これまで以上に強く求められます。～中略～そのためには、何を教えるか、という知識の質や量の改善はもちろんのこと、どのように学ぶか、という学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。また、こうした学習・指導方法の改革と併せて、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」に関する学習評価の在り方についても、同様の視点から改善を図る必要があると考えられます。」（平成26年11月20日、中央教育審議会諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」より一部抜粋）

「東山梨教育研究」も昭和38年の初刊以来、54号を数えます。東山梨地区の多くの先輩方が、これまで築き上げてこられた、すばらしい実践とその成果は実証済みです。前述の審議会の内容を受けて私たちは、さらに教育の在り方について一層の進化を図るべく、各々が、また学校が組織として、先ず授業の改善を図る取り組みを日々すすめています。そしてそれは、「知識及び技能の育成」、「思考力、判断力、表現力の育成」、「主体的な学習態度の育成」、いわゆる「学力の三要素」から構成される「確かな学力」を育むために、PDCAサイクルを基本として工夫、実践、改善の繰り返しと積み重ねをしているとも言うことができます。児童生徒一人ひとりが将来、幸福な人生を送れるようにすること、さらにより良い社会を築いていくことができるよう、私たち一人ひとりがさらに研鑽を積み、自己の資質向上を図らなければならないことは言うに及びません。

終わりにになりましたが、「東山梨教育研究・第54号」の発刊にあたり、お忙しい折に玉稿を賜りました甲州市教育委員会教育長様、並びに東山梨教育協議会会長様をはじめ、貴重な原稿を寄せられた諸先生方、山梨市、甲州市両教育委員会の財政面でのご援助に対し心より感謝申し上げます。なお、本冊子の表紙は教育協議会「図工・美術部会」の小林紀子先生（山梨南中学校2学年・矢崎愛梨さん作「壊れた星」灯りをつかった作品）にお願いしました。ご協力ありがとうございました。

【編集委員】

山梨市教育委員会教育長	丸山 森人
甲州市教育委員会教育長	保坂 一仁
峡東教育事務所副所長	窪田 新治
峡東教育事務所指導主事	柴田 幸也
東山梨教育協議会事務局次長	小串 吾郎
東山梨教育協議会研究推進委員長	小椋 規雄
山梨支会研究推進委員長	向山 敢
山梨支会研究推進副委員長	日野原和貴
甲州支会研究推進委員長	遠藤 香織
甲州支会研究推進副委員長	廣瀬 哲也

発行日	平成28年4月1日
発行責任者	東山梨教育研究 編集実行委員会
編集責任者	東山梨教育研究 編集実行委員会事務局
印刷所	昭和堂印刷